

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を掲示し、いつでも確認できるようにしている。事業計画にも反映している。	玄関横の目につき易い場所に法人とホームの理念が掲示されている。職員は理念を十分理解し、お互いに共有しながら具現化に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩に出かけ地域の方と交流を図っている。差し入れをいただいたり、様子を見にきてくださる方もある。行きつけの美容院に通うなどで交流を図っている。自治会に加入し区費を納めている。小学校、中学校との交流も図っていきたい。	地域のボランティアや住民との交流を図り、散歩や買い物などで顔馴染みの関係を築いている。地域の方達が「気軽に立ち寄れる高齢者の住まい」になることを目指している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	実習生の受け入れを行っている。広報誌等を通し、地域に向けての活動は必要と感じている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	評価結果を踏まえ、現在取り組んでいる内容についても報告し意見をもらうようにしている。防災や地域交流などサービスの向上に活かしている。	2ヶ月毎に運営推進会議が開催されており、地区社協会長、地区区長、地区相談役、地区民生委員、地域包括支援センター職員、家族などが集まり、取り組み状況や評価結果を報告し委員の意見をいただいている。いただいた意見等は運営に反映している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の市町村担当者として、地域包括支援センターの職員に委託している。地域の高齢者福祉の状況等の情報交換をしている。運営の方法や対応に不安のある時等積極的に意見を求めるようにしている。	地域包括支援センターとは入居の打診や高齢者福祉についての情報交換をしている。市の介護保険課とは運営に関することで相談をかけた情報交換をし協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	高齢者の権利擁護や身体拘束に関する研修を行い職員の共有認識を図っている。	身体拘束の研修を受け、職員はその弊害を理解している。施錠は行なわれていない。また、日常的にも身体拘束のないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法について研修を行い職員の共有認識を図っている。認知症の理解やその方の暮らし方の理解の不足が虐待に結びつきやすいことを理解し、理解に努めている。		

グループホーム川田の宿・椿棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修や資料の配布で制度について学んでいる。青年後見の必要なケースに関しては管理者、計画作成担当者が対応している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時間をとって丁寧に説明している。特に入院時の対応や退所の要件、利用料金については詳しく説明し同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情受付設置要綱を定め、契約時に文書で説明をしている。ご家族には面会時や連絡票で意見を聞くようにしている。外部評価の家族アンケートの結果や出された意見等は会議で報告し、反映させるようにしている。	家族がホームに来られた際に意見を求めたり、ホームから家族に請求書を送る際には生活の様子を連絡票に書き、写真も添えている。家族から意見や要望をいただくために事業所は面会時や意見箱以外にも、手紙や電話の折にもそれとなく声を掛けるようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ケア会議や面談時に意見を聞くようにし運営に反映している。日頃からコミュニケーションをとるよう心がけている。	職員から相談を受けたり意見を聞いている。職員一人ひとりの様子から必要と思われる場合には声をかけている。会議の際に職員の意見に耳を傾け、それらを運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の疲労やストレスの要因について気を配るようにしている。職員同士の人間関係について把握するよう努めている。係活動等で役割を持ってもらいやりがいにつなげている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の情報を収集し、職員の段階に応じて受講の計画を立てているが、全員の参加はできていない。他の事業所の職員の意見交換等も含めもっと多くの機会を設ける必要があると感じている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	圏域の連絡会で情報交換を行う、研修会に参加する等している。相互訪問等の交流の機会ができればと思っている。		

グループホーム川田の宿・椿棟

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前の面接で生活状況の把握に努め、ご本人の不安や要望を受けとめるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまでのご家族の苦労や、サービスの利用状況、要望等を聞くようにし、関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前に状況を聞く中で、必要なサービスを勧める等している。事前面接や入居前に事業所の見学にきていただく等徐々に関係を築いている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者は人生の先輩であるという考えを共有し、利用者から学ばせていただくことも多い。できることは協力していただきながら生活ができるよう心がけている。調理の相談や畑の事など相談するようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	訪問や電話、連絡票で状況を報告している。入居後の生活に慣れるまでは頻繁に面会をお願いする等協力をいただいている。ご家族が遠方の方等、より積極的に情報の共有が必要と感じている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行きつけの美容院に通い交流を図る利用者がある。墓参りや自宅を訪問する等で関係を支援している。入院した入居者の方を見舞う等関係が途切れないようにしている。	入居者は職員や家族の支援を受けながら美容室や喫茶店などに出かけている。ホームは入居者の馴染みの場所や人との関係が継続出来るよう積極的に支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係について職員は情報を共有し調整するように努めている。利用者同士の関係が円滑になるよう努めている。利用者同士でトイレの場所を教える、付き添う等支え合えるようになってきている。		

グループホーム川田の宿・椿棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了した後も面会に行く、ご家族からの相談にのる等の対応をしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の入居者の言動、態度等を大切に受け止め、ご本人の望んでいることを把握するように努めている。また会議の場で意見を出し合い、本人主体の支援を心がけている。対応については十分でない部分が多いと感じている。	入居者・家族の意見を聞いたり、日頃の行動の中から想いや意向を汲み取り推察し、意向に沿った本人本位の支援に心がけている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にご家族やご本人から話を聞いている。入居後も日々の関わりや会話の中からも聞き取るように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	記録や申し送りの中から把握、共有するようにしている。また、身体状況や周囲の環境が精神面で大きく影響することを理解し把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人の状況に合った介護計画の作成に努めているが、作成が遅れてしまうことがある。ご本人やご家族から要望を聞くように努め、会議等では現状にあった対応を検討している。	職員による各入居者の担当制をとっており、入居者・家族の意向を聞きながらカンファレンスを行い、介護計画を作成している。定期的に見直しもしており、状況が変化した場合には随時見直し、現状に即したものに作り変えている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の入居者の言動を記録し情報の共有を図っている。ご本人の状態に応じて必要な記録用紙を使用しケアに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院や緊急時の受診、買い物、外出等の送迎等一人ひとりに合わせ対応している。		

グループホーム川田の宿・椿棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に地域包括支援センターの職員、民生委員、地区の相談役等が参加し、周辺の情報の共有や地域での暮らしに役立っている。ボランティアの活用でより豊かな生活を支援したい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医の他、利用前からのかかりつけ医でも診療が継続できるようご家族と協力して受診介助をしている。	原則的には本人・家族が希望するかかりつけ医となっている。急変の際住診してくれる協力医がいるので専門医以外は協力医の診察も受けている。付添いは家族が行っているが職員が付添うこともある。訪問看護師が週に1回来訪しておりアドバイス等を頂いている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションとの契約により、日頃の健康管理や医療面での相談・助言・対応を依頼している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院によるダメージを防ぐため、医師と話し合いの機会を持ち、事業所内で対応可能な状態で早期に退院できるよう働きかけている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療連携を取る際、ご家族には対応指針を示し説明している。ご家族には重度化等に対しての意見を聞いているが、より頻回な対応が必要と感じている。職員の意識の共有も重要と感じている。	入所契約時に取り交わす重要事項説明書の中で「重度化・終末期対応指針」を家族に説明し了承を得ている。職員は情報を共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	普通救命講習は全員が受講するようにしている。事業所内でも研修し、対応できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	利用者と共に避難訓練を行っている。消防団や区長、消防団、運営推進委員にも協力をお願いしている。火災だけでなく、いろいろな災害を想定した訓練を行いたい。	年2回、近隣の2地区の運営推進委員の協力や消防署・消防団の指導を得て訓練が行われている。避難訓練と消火器を使った消火訓練を行い、緊急連絡網の訓練も行われている。近隣2地区との災害に関わる協定も結ばれており、非常災害に備えた食料品等の備蓄もある。	

グループホーム川田の宿・椿棟

自己 評価	外部 評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊厳やプライバシーについては会議で検討し言葉づかいや対応を考える機会としている。今年度は目標達成計画に組み入れ対応を検討、実践した。	運営規定や重要事項説明書に守秘義務、人権の尊重等についての記載があり、入居者・家族等に説明がされている。昨年度11月に作成した目標達成計画により具体的に取り組んでいる。センター方式を通していろいろな視点から入居者の気持ちを考えたり、職員自らが触れられたくないことについて話し合うなど実践につなげている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人が答えやすく選びやすい言葉掛けを心がけている。言葉では理解しにくい方には、用紙に書く、ジェスチャーで示す等で自己決定を促している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの体調に配慮しながら、できるだけその方のペースに沿って対応しているが、入浴・行事等職員の都合が優先している時がある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日常の着替えを自分で選んでいただき必要な時に手伝うようにしている。行きつけの美容院でおしゃれを楽しむ方もある。一緒に外出し衣類を購入する方もある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	下ごしらえや盛り付け、片付け、畑での収穫等、できるところは一緒に行うようにしている。全員で食卓を囲み、楽しい雰囲気ですべられるようにしている。好みを把握できている事もあるが、最近嗜好調査をしていない。	食事の用意や後片づけは各入居者が出来る範囲で参加している。職員と入居者が一緒に食卓を囲み、ゆっくりとした入居者のペースで食事を楽しんでいる。やわらかく煮たり、刻みにしたり、食べやすいように工夫もされている。食事も美味しく笑顔が絶えない和やかな時間であった。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その日の状況を確認し、食事や水分量の把握に努めている。食事量の少ない方には、好みのものを用意する等の対応をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分でできる方には見守り、できない方には必要なケアを行っているが、毎食後は実施できていない方もある。		

グループホーム川田の宿・椿棟

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を利用し、尿意の無い利用者にも時間をみて誘導している。できるだけトイレでできるよう支援している。トイレの場所を貼り紙でわかるようにしている。	排泄チェック表を利用し個々に沿った支援をしている。職員は排泄パターンを把握し、その日の状態を確認し合いながらトイレで出来るように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘が不穏等に大きく影響することは日常のケアの中から理解している。水分摂取を促す、散歩や運動で体を動かす等便秘の予防に努めている。朝食後のトイレ誘導で自然排便を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者のタイミングで入浴を促している。希望のあった時、発汗等の時は希望に沿って対応している。入浴の時間については日中のみで夜間浴等の対応はできていない。	本人本位に行っている。入浴を好まない入居者には気持を押し量り言葉掛けなどを工夫しながら本人のタイミングに合わせて支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動を促し、生活のリズムを整えるようにしている。体調や、その時の様子でゆっくり休めるよう心がけている。介助に手がかかる時など日中の活動が少ない時もあり課題となっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬状のファイルを用意し、職員がいつでも確認できるようにしている。服薬時はチェック表を利用し確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意なこと、できることはお願いするようにしている。畑、歌、縫物等役割を持っていたいっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節や誕生日等希望の場所に外出できるようにしている。ご本人の希望でお墓や自宅に行く等個人に合わせた対応をしている。ご家族と外出する、ボランティアと散歩に出る等協力をいただいている。介助の手がかかるようになり、機会を増やす工夫が必要と感じている。	入居者は地域のボランティアや家族の協力を得て散歩や外出に出かけている。本人の希望する場所や買い物に同行するなど一人ひとりに沿った外出支援を行っている。天候の良い時には外のテラスでくつろぎ外気浴を楽しんでいる。	

グループホーム川田の宿・椿棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	少額のお金を自分で管理している方もある。事業所で管理している方でも外出の時など自分で支払っていただくようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状はご家族に出す支援をしている。希望に応じて電話や手紙を出せるようにしている。電話の場所や使い方等、一人では難しいため支援が必要な状況である。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の方と作った作品を飾る等、季節を感じ、居心地よく過ごせる工夫をしている。テレビの音量等も注意している。	共有スペースは広く、それぞれ好きな所で過ごせるようになっている。食堂の横にある畳の部屋には大きな炬燵があり、廊下には一休みできる三人がけの木造の作り付けの椅子がある。電磁調理器を使うなど安全面や環境面にも配慮している。飾られた花や入居者の作品を見ていると自然に心が安らいでくる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやベンチ、和室等を利用して思い思いに過ごせるスペースがある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	部屋に自分の荷物が置かれていることで安心して生活できることを理解し、居室は使い慣れた物を持ってきていただき、居心地の良さに配慮している。	ベッド、いす、テレビ等、一人ひとりが使い慣れた馴染みの物が持ち込まれている。お仏壇や写真も飾られ、入居者の人生の軌跡を窺うことができる。ベッドの方が殆どだが、床の上に畳を敷き更に布団を敷いた和式の居室もあり、入居者の居心地の良い居室づくりがされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや浴室の場所をわかりやすくする等、利用者の方の状態に合わせて環境整備をしている。		